

第10回(1月期)モニタリング/フィードバック 月例会議

対象期間:平成25年1月1日~1月31日

那覇港湾・空港整備事務所

		異常確認の有無	工事との関連性	対策の検討
目視観察結果	<p>調査地点の最高値は1月8日AMにSt.17で93mg/lを観測した。これは調査直前の7:00~9:00に20mm程度の降雨が観測され、目視より河川からの濁水流入を確認した。 なお、1月は全監視地点で工事監視基準値を満足した。</p>			・特になし
	水質調査結果	<p>クビレミドロ監視地点基準値 【st.1~3: SS=7mg/l】</p>	<p>期間中は、全地点で工事監視基準値を満足した。 平均値は1.8mg/l、<1.0~5.1mg/lの範囲で推移していた。</p>	<p>1月は基準超過地点は、見られなかった。 ただし、1/31PMでst.1で5.1mg/Lと通常より高い値を示した。 要因としては、宮城島で最大風速が11m/sと風が強く、波も外海は時化していた。この風浪の影響で周辺の底質が巻き上がったと考えられる。</p>
		<p>工事の濁り監視地点基準値 【st.4~14: SS=11mg/l】</p>	<p>期間中は、全地点で工事監視基準値を満足した。 平均値は1.3mg/l、<1.0~6.0mg/lの範囲で推移していた。</p>	<p>1月は基準超過地点は、見られなかった。 ただし、1/16に工事箇所直近のst.11で6.0mg/Lを観測した。 要因のひとつとして、下げ潮時の強い潮流による影響が懸念されたことから、汚濁防止膜の状況を確認しながら慎重に作業を行った。 また、1/13にst.7で5.5mg/Lを観測し通常より高い値を示した。 要因として、前日から南東風が13.1m/sと強く、強風の影響で海域は時化しており、波浪により底質が巻き上がったことから、高い値がみられたと考えられる。</p>
		<p>流入部負荷量の調査地点</p>	<p>SS=11mg/lを超えた回数: st.15= 55計測中32回 (4.6mg/l~52mg/l) st.16= 55計測中40回 (4.4mg/l~93mg/l) st.17= 55計測中24回 (3.9mg/l~87mg/l) SS=50mg/lを超えた回数: st.15= 55計測中1回 st.16= 55計測中1回 st.17= 55計測中1回</p>	
		<p>流入水路部調査地点(st.15、st.16、st.17)は監視地点ではないため、基準値は設定されていない。</p>	<p>st.15: 1/9(PM 下げ潮時)で52mg/lが最大値であった。8:00~11:00に5.5mm程度降雨があり、水路より濁水を確認した。 st.16: 1/8(PM 上げ潮時)で93mg/lが最大値であった。7:00~9:00に20mm程度降雨があり、水路より濁水を確認した。 st.17: 1/8(AM 下げ潮時)で87mg/Lが最大値であった。7:00~9:00に4mm程度降雨があり、水路より濁水を確認した</p>	<p>【調査位置図】</p> 
<p>基準超過時の気象概況</p>	<p>1月は基準超過地点が見られなかったため、参考として海域で高い値を示した1/13、16、及び流入水路部地点のSS値が高い1/8,9の気象概況を示す。 ・1月8日は、平均風速が4~12m/sで、最多風向は北北東方向であった。降雨は前々日に2mm、前日0.5mm、及び当日は35mmで、特に7:00~9:00に20mmを観測した。 ・1月9日は、調査時間中の平均風速が4~8m/s、最多風向は北方向であった。降雨は前々日に0.5mm、前日35mm、及び当日は12mmで、特に8:00~11:00に5.5mmを観測した。 ・1月13日は、平均風速が3~7m/sで、最多風向は北東方向であった。降雨は前々日に0mm、前日に0.5mm、及び当日は33.5mmで、特に15:00~24:00に30mmを観測した。調査時の海域は、波高が0.6~0.8mと時化していた。 ・1月16日は、平均風速が1~5m/s、最多風向は北方向であった。降雨は前々日に4.5mm、前日及び当日は0mmであった。</p>			
<p>基準超過時の工事状況</p>	<p>調査時の工事内容は以下の通りであった。 揚土場:土砂工(空気圧送揚土)(1/8、9、16) 仮設航路:浚渫・汚濁防止膜の点検(1/8、9、16) 突堤:捨石・被覆石均し(1/8、9、16)、捨石荒均し(1/13 午後中止) 陸上:護岸工事(捨石・被覆石均し(1/8、9、16)、石材撤去(1/8、9)) 新港地区:潜水探査(1/9,16)</p>			

(備考)st.8及びst.9は沖縄県により調査が実施されている。

